

哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学特論Ⅰ	ニーチェの道德批判	2	城戸 淳	前期 木曜日 2講時	
哲学特論Ⅱ	フッサールの時間論 その背景・展開・受容	2	村田 憲郎	前期集中 その他 連講	
哲学特論Ⅲ	表情・共同主観性の哲学	2	直江 清隆	前期 火曜日 3講時	
生命環境倫理学特論Ⅰ	研究倫理の諸問題	2	原 塑	後期 金曜日 5講時	
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江 清隆、荻原 理 原 塑、城戸 淳	前期 月曜日 5講時	
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江 清隆、荻原 理 原 塑、城戸 淳	後期 月曜日 5講時	
哲学研究演習Ⅰ	ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』を読む	2	城戸 淳	後期 木曜日 2講時	
哲学研究演習Ⅱ	ニーチェ『善悪の彼岸』精読	2	森 一郎	前期 金曜日 3講時	
古代中世哲学研究演習Ⅰ	プラトン『テアイテス』を読む (1)	2	荻原 理	前期 月曜日 3講時	
哲学研究演習Ⅲ	現代功利主義研究	2	直江 清隆	後期 火曜日 3講時	
古代中世哲学研究演習Ⅱ	プラトン『テアイテス』を読む (2)	2	荻原 理	後期 月曜日 3講時	
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粹理性批判』研究	2	城戸 淳	前期 水曜日 5講時	
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『たんなる理性の限界内の宗教』研究	2	城戸 淳	後期 水曜日 5講時	
現代哲学研究演習Ⅰ	現象学研究	2	直江 清隆	前期 火曜日 5講時	
現代哲学研究演習Ⅱ	現象学研究	2	直江 清隆	後期 火曜日 5講時	
科学哲学研究演習Ⅰ	哲学のメソッド	2	原 塑	前期 金曜日 4講時	
科学哲学研究演習Ⅱ	記号論理学	2	原 塑	後期 金曜日 4講時	
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	研究倫理の哲学的基礎	2	原 塑	前期 金曜日 5講時	

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM14208, 科目ナンバリング：LIH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ニーチェの道徳批判

2. Course Title (授業題目) : Nietzsche's Critique of Morality

3. 授業の目的と概要： ニーチェの道徳批判について考察する。19 世紀末にニーチェが提起したキリスト教道徳に対する系譜学的な批判は、いわば不発弾のまま、21 世紀のわれわれの曖昧な道徳意識に突きつけられているように思われる。この講義では、拙著『ニーチェ——道徳批判の哲学』に基づいて、(1) ニーチェの歴史哲学(系譜学)の形成を辿ったあと、(2) 『道徳の系譜学』の諸論点に立ち入って解釈し、(3) 遠近法主義、生の価値、永遠回帰などの諸論点に触れながらニーチェの道徳批判の射程を探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this lecture we will discuss Nietzsche's critique of morality. On the basis of my book on this theme, I will (1) trace the developmental formation of Nietzsche's philosophy of history (genealogy), (2) discuss the interpretative problems of the "On the Genealogy of Morality", and (3) explore the philosophical scope of Nietzsche's critique.

5. 学習の到達目標：ニーチェの道徳批判の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To get an overview of Nietzsche's critique of morality.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 問題提起——なぜ道徳を批判するのか
- 2 若きニーチェにおける古典文献学と歴史
- 3 系譜学の方法の形成
- 4 『道徳の系譜学』へ——序論を読む
- 5 第一論文(1) ——イギリスの心理学者と貴族的価値評価
- 6 第一論文(2) ——ルサンチマンによる価値転換
- 7 第一論文(3) ——ルサンチマンにおける自己欺瞞
- 8 第二論文(1) ——よい良心と疚しい良心
- 9 第二論文(2) ——内攻的残虐さから神に対する罪へ
- 10 第三論文(1) ——禁欲主義の理想
- 11 第三論文(2) ——キリスト教の自己超克
- 12 ニーチェの道徳批判と生の価値の問題
- 13 ヨーロッパのニヒリズム
- 14 道徳の遠近法と歴史
- 15 永遠回帰の肯定的理解へ

8. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

城戸淳『ニーチェ——道徳批判の哲学』(極限の思想)、講談社、2021年(ISBN: 9784065239490)。(生協に入荷しています)

10. 授業時間外学習：ニーチェの著作(とりわけ『道徳の系譜学』)を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期集中 単位数：2

担当教員：村田 憲郎

コード：LM98817, 科目ナンバリング：LIH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フッサールの時間論 その背景・展開・受容

2. Course Title (授業題目) : Husserl's Theory of Time; its Background, Development, and Reception

3. 授業の目的と概要：本講義では、エトムント・フッサールの現象学のなかから、とりわけ時間意識の現象学の議論を発展史的・問題史的に包括的に紹介します。まず、フッサールの時間論が、その母体であるブレンターノ学派を背景として、どのように成立してきたか、次に、時間論が彼の哲学全体との関連のなかで初期・中期・後期とどのような展開を遂げてきたか、最後に、彼の時間論が、ポスト・フッサールの現象学において、および現代の時間経験の哲学において、どのように受容されているか、を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, I will introduce to the Phenomenology of Edmund Husserl, especially to his Phenomenology of Time-Consciousness, comprehensively in terms of the development of its problematique. It will be treated at first how Husserl's theory of time was founded against the backdrop of the philosophies of Brentano School, then secondly how it developed, stepping on the early, the middle, and the last stage, in accordance with his total system of phenomenology, and thirdly, how it was received into the context of post-Husserlian phenomenologies, then of the contemporary philosophy of temporal experience.

5. 学習の到達目標：フッサールの時間意識の現象学をモデルケースとして、ある哲学の理論が固有の歴史的な脈の中で成立・発展・受容されるあり方と、その理論がもつ現代的な意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand, by means of Husserl's Phenomenology of Time-Consciousness as a model case, how a philosophical theory is founded, developed, and received in its own historical context, and its actual significance.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 導入
- 2) 背景 I：ブレンターノの記述の心理学：心的現象の分類、心の部分論
- 3) 背景 II：ブレンターノ学派の諸相（マイノング、エーレンフェルス）と初期フッサール
- 4) 『算術の哲学』と『論理学研究』（数の起源としての「集合的結合」、知覚することと体験すること、志向と充実化）
- 5) 『内的時間意識の現象学』のテキスト成立事情：1904/5 年の「時間講義」と E. シュタイン編集版の内容的相違
- 6) 初期時間論 I：ブレンターノの「根源的連合説」批判と継起の知覚
- 7) 初期時間論 II：時間論の基礎：統握-内容図式、時間図表、三層構造と相関性、方法論
- 8) 初期時間論 III：再想起と把持、二重の志向性、時間を構成する流れ、先反省的自己意識
- 9) 初期時間論と『イデー I』：事物／体験の区別と現象学的還元
- 10) 中期時間論『ベルナウ草稿』：予持、発生的諸層、受動的再想起
- 11) 『ベルナウ草稿』と『受動的総合の分析』：時間論と発生的現象学、意識流の即自の構成
- 12) 後期時間論『C 草稿』：徹底化された還元、自我の反省の問題、生誕・眠り・死、衝動志向性、歴史と目的論
- 13) その後の受容 I：ポスト・フッサールの現象学：フィンク、ハイデガーとデリダ、アンリ、レヴィナス
- 14) その後の受容 II：時間経験の哲学：知覚の哲学との関連、ポスト・ディクション／プレディクション、「流れ」の問題
- 15) 総括

8. 成績評価方法：

各実施日のリアクション・ペーパー [10%]

講義中に扱った、あるいは関連するトピックについてのレポート [90%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布し、また参考文献の参照指示を行う。

10. 授業時間外学習：講義の内容についてあらかじめ調べられることは調べておく。また、配布資料の内容について適宜復習し、必要な場合には質問する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12307, 科目ナンバリング：LIH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：表情・共同主観性の哲学

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of expression and intersubjectivity

3. 授業の目的と概要：廣松渉は戦後を代表する哲学者の1人である。その独自の哲学は、関係の第一次性、事的世界観、四肢構造、共同主観性などのキー概念で知られる。本講義では廣松哲学における表情、間主観性の問題を取りあげ、その現代的な意義を検討する。背景となるドイツ哲学と関連付けながら、20世紀後半の日本哲学の動向を理解することも併せて追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Wataru Hiromatsu is one of the leading philosophers of the postwar era Japan. His original philosophy is known for key concepts such as relationism-Weltanschauung, four-fold structure formation, intersubjectivity and so on. In this lecture, we will take up the issues of expression and intersubjectivity in Hiromatsu's philosophy and examine their contemporary significance. We will also pursue the understanding of the trend of Japanese philosophy in the latter half of the 20th century in relation to the German philosophy.

5. 学習の到達目標：表情論、間主観性論の基本的な問題を説明することができる。
廣松哲学の基礎概念の特質と現在の意義について論じることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the fundamental philosophical issues of expression and intersubjectivity
・ Discuss the characteristics and contemporary significance of Hiromatsu's philosophy

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のプランをもとに講義を進める。(ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに応じて順序や同一テーマの回数などを変えることがある。)

講義ではあるが、必要に応じて原著のコピーを配布し、読解する。

第1回 20世紀哲学と廣松哲学/『存在と意味』の体系構想

第2回 現相的世界と四肢構造論① マッハとの対質

第3回 現相的世界と四肢構造論②

第4回 表情的世界と共同主観性①

第5回 表情的世界と共同主観性②

第6回 当事者意識と学知的反省

第7回 判断論の問題構成① 新カント学派

第8回 判断論の問題構成② 対象論など

第9回 関数概念と関係主義① 「もの」から「こと」へ

第10回 関数概念と関係主義② 科学論

第11回 言語的世界と記号論

第12回 役割行為論

第13回 物象化論の射程①

第14回 物象化論の射程②

第15回 近代の超克？

8. 成績評価方法：

レポート 80%、授業への参加度 20%

9. 教科書および参考書：

廣松渉『世界の共同主観的存在構造』岩波文庫、同『事的世界観への前哨』ちくま学芸文庫、同『表情』弘文堂、同『もの、こと、ことば』ちくま学芸文庫など。

10. 授業時間外学習：関連する参考図書、関連図書などを利用して、授業で取りあげたトピックスについて自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25503, 科目ナンバリング：LIH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究倫理の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Problems of Research Ethics
3. 授業の目的と概要：この授業では、科学研究への倫理的規制を検討する狭義の研究倫理と、研究不正の防止方法を考察する研究公正という二つの内容を扱います。自然科学・人文社会科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方です導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、よい研究者になるために、どのような仕方である望ましいのか、また望ましくないのかということと、その根拠を学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class deals with two topics: research ethics in the narrow sense, which examines ethical restrictions on biomedical science research, and research integrity, which considers ways to prevent research fraud.
5. 学習の到達目標：1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深める。
2. 研究不正のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになる。
3. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To deepen your awareness of the responsibility of the researcher.
2. To understand the different types of research fraud and explain why such fraud is undesirable.
3. To understand the circumstances in which fraudulent activity occurs and be able to make appropriate decisions.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。1 3 回目以降の授業では、研究倫理に関わる新しい問題を、論文や資料を使いながら、検討します。実施方法はオンライン同期型です。
 1. イントロダクション
 2. 人を対象とする研究の倫理
 3. フィールドワークの倫理
 4. 文献研究の倫理
 5. 学術コミュニケーションの倫理 1
 6. 学術コミュニケーションの倫理 2
 7. 学術コミュニケーションの倫理 3
 8. 研究公正概観
 9. ピア・レビュー
 - 1 1. 再現性
 - 1 2. 軍事研究
 - 1 3～1 5. 研究倫理の新しい問題
8. 成績評価方法：
出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
なし
- 1 0. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
- 1 2. その他：なし

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆・荻原 理・原 壘・城戸 淳

コード：LM11504, 科目ナンバリング：LIH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは qgg476o です。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆・荻原 理・原 壘・城戸 淳

コード：LM21503, 科目ナンバリング：LIH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：授業の実施形態：オンライン

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 報告と討論 (1)

3. 報告と討論 (2)

4. 報告と討論 (3)

5. 報告と討論 (4)

6. 報告と討論 (5)

7. 報告と討論 (6)

8. 報告と討論 (7)

9. 報告と討論 (8)

10. 報告と討論 (9)

11. 報告と討論 (10)

12. 報告と討論 (11)

13. 報告と討論 (12)

14. 報告と討論 (13)

15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM24210, 科目ナンバリング：LIH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』を読む
2. Course Title (授業題目)：Nagel's "Mortal Questions"
3. 授業の目的と概要：トマス・ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』(邦訳)を読む(原典は Thomas Nagel, Mortal Questions, Cambridge University Press, 1979)。人間がふだんの生活のなかで出会う切実な諸問題は、分析哲学の伝統ではしばしばなおざりにされてきたが、ネーゲルはそれらの問題にほとんど素手で(つまり哲学的な伝統や術語に依拠することなく)取り組み、粘り強い哲学的議論を試みている。演習ではこの書の諸論文について、担当者の報告をふまえて、討議によって理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Thomas Nagel's MORTAL QUESTIONS. In the tradition of analytic philosophy, the serious problems that we encounter in our lives have often been neglected. Nagel attempts to clarify these problems in the manner of sober philosophical argumentation. In the seminar, students will be assigned to report on a chapter of the book.
5. 学習の到達目標：ネーゲルの哲学的論証を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To comprehend the philosophical arguments of Nagel.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 0 導入と担当決定
 - 1 死
 - 2 人生の無意味さ
 - 3 道徳における運の問題
 - 4 性的倒錯
 - 5 戦争と大量虐殺
 - 6 公的行為における無慈悲さ
 - 7 優先政策
 - 8 平等
 - 9 価値の分裂
 - 10 生物学の埒外にある倫理学
 - 11 大脳分離と意識の統一
 - 12 コウモリであるとはどのようなことか
 - 13 汎心論
 - 14 主観的と客観的(上記は目次。人数に応じて、何本かを選んで演習にとりあげる。)
8. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

トマス・ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』永井均訳、勁草書房、1989 年
10. 授業時間外学習：教科書を繰り返し読む。英語の原書を読むと、もっと細部まで立体的に理解できる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学研究演習Ⅱ／Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LM15303, 科目ナンバリング：LIH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ニーチェ『善悪の彼岸』精読
2. Course Title (授業題目)：Reading Nietzsche: Beyond Good and Evil
3. 授業の目的と概要：この授業では、ニーチェの最重要著作の一つである『善悪の彼岸』を精読し、哲学、倫理学、宗教の根本問題について考えていく。

*全員が教室に集まって対面授業を行ないたいが、それが難しい場合、
グーグルミートでリアルタイムオンライン授業を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Nietzsche's greatest works, Beyond Good and Evil, carefully and think about the basic problems of philosophy, ethics and religion.

*I would like to see all the class members at the real classroom (face to face),
but, if impossible, we use Google Meet (real-time online).

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう
2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。
3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。
4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.
2. To learn the significance of thinking radically.
3. To learn the significance of the history of philosophy.
4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern human condition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス
第2回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その1)
第3回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その2)
第4回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その3)
第5回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その4)
第6回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その1)
第7回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その2)
第8回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その3)
第9回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その4)
第10回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その1)
第11回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その2)
第12回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その3)
第13回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その4)
第14回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その5)
第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点(出席・質疑応答への参加等)50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布(配信)し、それに沿って議論する。

参考書：

- Friedrich Nietzsche, *Jenseits von Gut und Boese*, in: *Kritische Studienausgabe* Bd. 5, dtv/ Grutyer, 1988
- Friedrich Nietzsche, *Jenseits von Gut und Boese. Zur Genealogie der Moral*, Kroener Taschenbuch, 1991
- Friedrich Nietzsche, *Beyond Good and Evil*, translated by Walter Kaufmann, Vintage Books, 1989
- ニーチェ『善悪の彼岸』木場深定訳、岩波文庫、1970年(改版2010年)
- ニーチェ『善悪の彼岸』信太正三訳、『ニーチェ全集 11』ちくま学芸文庫所収、1993年
- ニーチェ『愉しい学問』講談社学術文庫、2017年
- ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』上/下、氷上英廣訳、岩波文庫、1967/1970年

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM11309, 科目ナンバリング：LIH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：プラトン『テアイテトス』を読む (1)

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Plato's THEAETETUS, 1

3. 授業の目的と概要：プラトン『テアイテトス』の冒頭から、原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : We shall read Plato's THEAETETUS from the beginning.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学習の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『テアイテトス』篇は、知識（エピステーメー）とは何かを問うたプラトン後期の対話篇。

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1回に7行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は1回に OCT の 1 ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22308, 科目ナンバリング：LIH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代功利主義研究
2. Course Title (授業題目)：Seminar on contemporary utilitarianism
3. 授業の目的と概要：現在の規範倫理学、応用倫理学における有力な立場である功利主義の文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on contemporary utilitarianism and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of utilitarianism.
5. 学習の到達目標：・現代功利主義の基本概念について説明をすることができる。
・現代功利主義に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of contemporary utilitarianism
・Discuss the fundamental issues in contemporary utilitarianism
7. 授業の内容・方法と進度予定：
カタジナ・デ・ラザリ=ラデク, ピーター・シンガー『功利主義とは何か』(Lazari-Radek, Katarzyna de and Singer, Peter)Utilitarianism：a very short introduction, 2017)を手がかりに、関連する1～2の論文を取りあげ、議論する。(後半で取りあげる論文には、Hare, R. M.(2012) A Utilitarian Approach, Kuhse, Helga and Singer, Peter(ed) (2012) A Companion to Bioethics, Second Edition, pp.85-90, Wiley-Blackwell.あたりも候補になる。)
- 1, オリエンテーション
- 2, 功利主義の起源
- 3, 功利主義における正当化(1)
- 4, 功利主義における正当化(2)
- 5, 最大化とは(1)
- 6, 最大化とは(2)
- 7, 反論
- 8, 規則
- 9, 功利主義の実践
- 10, 論文読解(1)
- 11, 論文読解(2)
- 12, 論文読解(3)
- 13, 論文読解(4)
- 14, 論文読解(5)
- 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
教科書 カタジナ・デ・ラザリ=ラデク, ピーター・シンガー『功利主義とは何か』森村進, 森村たまき訳、岩波書店, 2018.(Lazari-Radek, Katarzyna de and Singer, Peter)Utilitarianism：a very short introduction, 2017)、ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM21307, 科目ナンバリング：LIH-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：プラトン『テアイテトス』を読む (2)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's THEAETETUS, 2

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、プラトン『テアイテトス』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Following the previous semester, we shall continue to read Plato's SOPHIST.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学習の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『テアイテトス』篇は、「知識（エピステーメー）とは何か」を問うたプラトン後期の対話篇。

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1回に7行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は1回にOCTの1ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを提供する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM13505, 科目ナンバリング：LIH-PHI612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度は、超越論的感性論 (tr. Aesthetik) の第 7 節「解明」と第 8 節「一般的註解」にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We will read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In this year's course we will work on section 7 "Elucidation" and section 8 "General Observations" of the Transcendental Aesthetic. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Aesthetic.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 感性論への導入
 - 2-5 解明
 - 6-9 一般的註解 (I)
 - 10-12 一般的註解 (II)
 - 13 一般的註解 (III)
 - 14-15 一般的註解 (IV)・結論
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議による。
9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM23506, 科目ナンバリング：LIH-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『たんなる理性の限界内の宗教』研究
 2. Course Title (授業題目)：Kant's "Religion Within the Bounds of Bare Reason"
 3. 授業の目的と概要：カント『たんなる理性の限界内の宗教』(Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft, 1794)をドイツ語原典で読む。今学期はその第一篇をなす「根源悪 (das radicale Böse)」論を検討する。根源悪とは、キリスト教の「原罪」論をカントが批判倫理学の観点から再構成したものである。演習では訳読に加え、コメントリーや研究文献の報告をしてもらう。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Kant's "Religion Within the Bounds of Bare Reason"(1794) in German. In this semester, we will focus on the first part of the book on the radical evil, which is Kant's reinterpretation of the Christian theory of original sin from the point of view of critical ethics. Students will translate the assigned texts, answer interpretative questions, and report on the commentary and research literature.
 5. 学習の到達目標：カントの宗教論第一篇の根源悪論を読み、その哲学的洞察を理解する。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding the philosophical insights of Kant's theory of radical evil
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 カントの宗教論への導入
 - 2 第1版序文
 - 3 第2版序文
 - 4-5 哲学的宗教論 第一篇 悪の原理が善の原理と並び住むことについて、あるいは人間本性のうちなる根源悪について
 - 6-7 註解
 - 8 I 人間本性のうちなる善への根源的素質について
 - 9 II 人間本性のうちなる悪への性癖について
 - 10-12 III 人間は生来悪である
 - 13 IV 人間本性における悪の起源について
 - 14-15 一般的註解 (善への根源的素質が力を回復することについて)
(第一篇から読み進める。進捗に応じてテキストの範囲はかわる。)
 8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。
 9. 教科書および参考書：

教科書 Immanuel Kant, Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft, Philosophische Bibliothek 545, hrsg. von B. Stangneth, Felix Meiner Verlag, 2. Aufl., 2017. (ISBN: 978-3-7873-3314-1)
- 参考書 Stephen R. Palmquist, Comprehensive Commentary on Kant's Religion Within the Bounds of Bare Reason, Wiley-Blackwell, 2016.
- 『カント全集 10 たんなる理性の限界内の宗教』北岡武司訳、2000年。
10. 授業時間外学習：予習を欠かさず、テキストをよく読むこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12507, 科目ナンバリング：LIH-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデー II』(構成についての現象学的研究)を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of phenomenological theory of perception, embodiment, ego.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『イデー』(純粋現象学と現象学的哲学のための諸構想)は20世紀の最も重要な哲学書の一つに数えられる。『イデー I』で現象学的還元やノエシス・ノエマの構造についてプログラムの考察を行った後、本書『イデー II』では、「構成についての現象学的研究」として、「自然と精神」に関わる幾つかの重要な問題について具体的な分析が行われる。その哲学・思想への影響は広範囲に及ぶ。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の議論をていねいに読み解きながら、知覚、身体、自我といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、『イデー』における現象学的還元

3、『イデー』における志向性の問題

4、「構成についての現象学的研究」読解(1)

5、「構成についての現象学的研究」読解(2)

6、「構成についての現象学的研究」読解(3)

7、「構成についての現象学的研究」読解(4)

8、中間まとめ 間主観的な現実としての自然の構成について

9、「構成についての現象学的研究」読解(6)

10、「構成についての現象学的研究」読解(7)

11、「構成についての現象学的研究」読解(8)

12、「構成についての現象学的研究」読解(9)

13、「構成についての現象学的研究」読解(10)

14、「構成についての現象学的研究」読解(11)

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band (Husserliana IV), (Ideas", Second Book) (『イデー II-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書(例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas II (Contributions to Phenomenology) (Contributions to Phenomenology, 24), 2010)は適宜院生に紹介してもらう。

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22506, 科目ナンバリング：LIH-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデーⅡ』（構成についての現象学的研究）を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of phenomenological theory of perception, embodiment, ego.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『イデーⅡ』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『イデーⅡ』における自然的世界の構成

2、「構成についての現象学的研究」読解（1）

3、「構成についての現象学的研究」読解（2）

4、「構成についての現象学的研究」読解（3）

5、「構成についての現象学的研究」読解（4）

6、中間まとめ1 知覚、キネステーゼについて

7、「構成についての現象学的研究」読解（5）

8、「構成についての現象学的研究」読解（6）

9、「構成についての現象学的研究」読解（7）

10、「構成についての現象学的研究」読解（8）

11、中間まとめ1 純粹自我について

12、「構成についての現象学的研究」読解（9）

13、「構成についての現象学的研究」読解（10）

14、「構成についての現象学的研究」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート50%

平常点50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band(Husserliana IV), (Ideas", Second Book)(『イデーⅡ-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書(例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributions to Phenomenology, 24), 2010)は適宜院生に紹介してもらう。

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15407, 科目ナンバリング：LIH-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を演習を通じて学ぶ。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, you will learn how to write a philosophical paper through exercises.

5. 学習の到達目標：1. 哲学論文の分析方法に習熟する。

2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. You will be familiar with philosophical methods

2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、同期・非同期併用授業として実施する。

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション

2～6. 哲学研究方法論演習

7～9. 文献のまとめ方演習

10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

9. 教科書および参考書：

佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会

戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会

10. 授業時間外学習：論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修 3 年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜 5 限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM25406, 科目ナンバリング：LIH-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記号論理学

2. Course Title (授業題目) : Formal Logic

3. 授業の目的と概要：一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this course is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学習の到達目標：1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。

2. 記号の操作法を身につける。

3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. Understand the basic concepts of formal logic.

2. Learn how to operate symbols.

3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目はオンライン、同期授業として実施する。

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー1
7. タブロー2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性1
12. 日本語による推論の妥当性2
13. 日本語による推論の妥当性3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014年

丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014年

10. 授業時間外学習：自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM15504, 科目ナンバリング：LIH-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究倫理の哲学的基礎

2. Course Title (授業題目)：Philosophical Foundations of Research Ethics

3. 授業の目的と概要：研究倫理は医学・生命系の研究に課せられるべき倫理的制約やその根拠づけを検討する研究分野です。ただ、その理論的基礎については十分には明らかにされていません。そこで、この演習では、研究倫理の哲学的基礎を公共善に求める、Alex John London の著作、For the Common Good (2022) を購読します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Research ethics is a research field that examines the ethical restrictions that should be imposed on biomedical research. However, the theoretical basis has not been fully clarified. Therefore, in this course, we read Alex John London's book, For the Common Good (2022).

5. 学習の到達目標：研究倫理の概要とその理論的基礎を理解する。
哲学文献の読解に習熟する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the outline of research ethics and its theoretical foundations. To become familiar with reading philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Alex John London, 2022. For the Common Good. Oxford University Press を冒頭から読みます。授業形態としては、オンライン同期型にする予定です。毎回、ある程度の分量を読むために、自動翻訳の使用を認めます。また、テキストは授業時に配布します。

授業計画は以下の通りです。最初、研究倫理について解説した後（1回～3回授業）、Part I. DOES RESEARCH ETHICS REST ON A MISTAKE? を前から読んでいきます（4回～15回授業）。

8. 成績評価方法：

課題（60%）、レポート（40%）

9. 教科書および参考書：

Alex John London, 2022. For the Common Good. Oxford University Press

10. 授業時間外学習：書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし